

徳島病院

【徳島の地】

四国は、愛媛県・香川県・高知県・徳島県の四県よりなり、なかでも大阪寄りに位置するのが徳島県であり、「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々」の囃子ことばで有名な阿波踊りは誰もが知るところでしょう。また近年では、米津玄師が年末のNHK紅白歌合戦で歌唱した大塚美術館にも多くの人が訪れています。

徳島病院は、県庁所在地の徳島市より東西に走る国道192号線を西に20Km程進むと、車中より向かって左側、四国山地の山裾より一段高い丘の上に位置し、新病棟からは吉野川を遠く北側に見下ろせ、また春には鶯の囀りが聞こえてくる長閑な地に建っています。

近くには、古代朝廷の祭祀を担っていた忌部氏（平成に続き、令和の大嘗祭でも阿波忌部氏の末裔が麻織物を献上するそうです。）縁の西宮古墳があるので、古代史に興味がある方は訪れてみてはいかがでしょうか。

【病院概要】

現在、四国神経筋センター・徳島県難病医療拠点病院として筋ジストロフィー・進行期パーキンソン病・多系統委縮症・進行性核上性麻痺・筋委縮性側索硬化症（ALS）・プリオン病・重傷筋無力症・慢性炎症性脱髄性多発神経炎等の治療を行っています。

また、スポーツ整形外来も行っており、近隣の県からも多くのアスリートが治療に訪れ、先の疾患の方々と共に機能回復のリハビリテーションに励んでいます。



【放射線科概要】

放射線科は診療放射線技師3名・放射線科医師1名の人員配置で、1.5T MRI装置、16列CT装置、TV、外科用イメージ、ポータブル装置を稼働させています。

当院は、未だに複写紙の検査依頼書で運用し、フィルムをプリントアウトし、看護師は大きな親袋にたくさんのフィルムを詰めて院内を往来している状況です。外来棟自体も古く一昔前の国立病院をご存じの方には懐かしく思える情景です。

現在、同機構病院の東徳島医療センターとの統廃合が白紙に戻り、統廃合を見据えていた故に10年を優に経過した検査機器を更新出来ない状態のまま今日に至っています。



【院内の催し】

例年夏には患者自治会「青筍会」が中心となり、患者家族・職員・職員 OB・地域のボランティアの方々と協力し、ファイアーストームが開催されます。やきそばや綿菓子作りの模擬店・大人気のこんちゃんめくりゲーム・演奏会・患者作品展等々が行われ、締めくくりは花火があげられ、みんなで夏の楽しいひと時を過ごしています。